

第四種特殊生物報告書

Peculiar creature of category 4

2013

第四種特殊生物報告書

Peculiar creature of category 4

2013

第四種特殊生物対策研究機構

Research Organization for PCC4

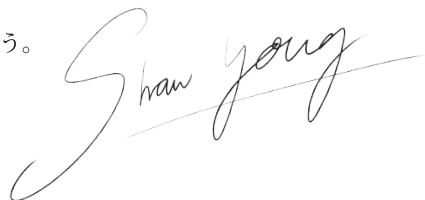
世界恐慌、地球温暖化、第三次世界大戦。人類はときに滅びへの道を感じ、恐怖する。だが、本当の恐怖とは、身近なところから人々に気づかれることなく少しずつ近づいてくるものだ。

我々は古来より、人類に害をなす生物や存在に関して調査・分類し、陰ながら人々の幸せを支えてきた。しかし、ある時その分類のどれにも当てはまらない極めて危険かつ謎多き存在を発見し、我々は“第四種”特殊生物と名付けた。彼らはほとんどの人間に気づかれることなく、だが着実に人類を滅びの道へ誘っている。国家はこの危機に対してまともな対応をしていない。

この本は、第四種特殊生物に対する我々の調査結果を整理し、わずかながらの対策とともに報告書としてまとめたものである。この内容は、本来であればトップシークレットにあたり、我々の存続をかけて出版される。もはや現状放置のままでは世界が持たない段階まできているのだ。

我々の警鐘が一人でも多くの人に届くことを願う。

第四種特殊生物対策研究機構
ショウ・ヤング



ネイルリッパー	<i>nailripper</i>	4
アイロータン	<i>eyelotan</i>	6
ヒートスネーク	<i>heatsneak</i>	8
	<i>column</i> ネコ対ヒートスネーク	9
クラジャーバ	<i>frogishhammer</i>	10
ジョロラータ	<i>showerbyrad</i>	12
ジカンドロボウ	<i>paralyzer</i>	14
	<i>column</i> 第四種特殊生物レシビ	15
ココビコロシ	<i>fourthhitter</i>	16
クロスイーター	<i>clotheseater</i>	18
フエモドキ	<i>whistlehead</i>	20
タヒーラオ	<i>hiratius</i>	21
	<i>column</i> 研究施設紹介	22
エンゼルヘア	<i>angelhair</i>	24
タングルオクトパス	<i>tangler</i>	26
キホウ	<i>bubble</i>	28
	<i>column</i> 第四種特殊生物の片鱗	30
ポートカリ	<i>habiportant</i>	32
頻尿蛇口マン	<i>pollakiuria</i>	34
ウルキソン	<i>willkison</i>	35
イヴロン	<i>evelyon</i>	36
サラマンドラ	<i>salamander</i>	38
	<i>column</i> 第四種未確認生物に関する報告	40
	あとがき	42



ネイルリッパー

爪切職人

学名：scindendum-ungues（英：nailripper）

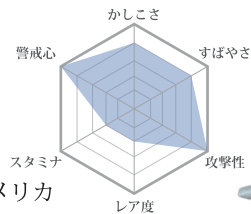
体重：10g～20g

体長：10mm～50mm

寿命：15年～30年

危険度：★★★★☆

生息地：アジア、北アメリカ



ネイルリッパーは人間の爪を主食とする生物である。普段は爪切りの中に潜み、切られた爪を食べて生きている温厚な性格の生物であるが、家庭の住人が旅行へ行った後は獰猛になる。ネイルリッパーは、4日以上食糧を得られない状況が続くと、爪切りから自らの体を瞬間的に伸ばして、より多くの食糧を一度に確保しようとする。この被害にあった際に現れる症状、これが俗に言う深爪である。最大の身体的特徴である金属質のくちばしは、このために発達したと考えられている。

爪切りの中に潜んでいる状態では、爪切

りの支柱に尾を絡めて体を固定し、甲殻類のような目のみを外に出して捕食の機会をうかがっている。寿命は比較的長いため、一生のうちに複数の爪切りを渡り歩く個体もある。写真は、このネイルリッパーの貴重な引っ越しの瞬間をとらえたものである。しかし、基本的に爪切りの内部で生活し、外に出ていたとしても非常に俊敏であるため、長らく発見されなかった。本研究機関が初めて飼育に成功し、第四種特殊生物の長期的な観察を実現した記念碑的な生物であるため、現在もエンブレムに採用されている。



アイ・ロータン

最恐にして最悪

学名：oculus-lotan（英：eyelotan）

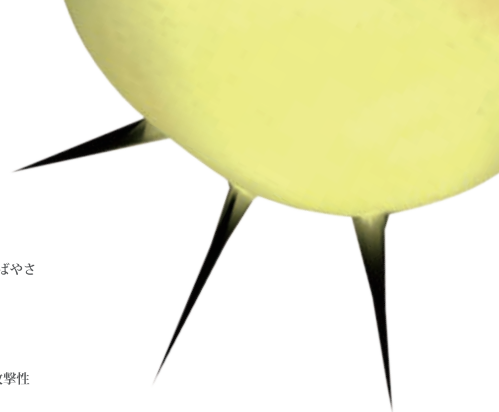
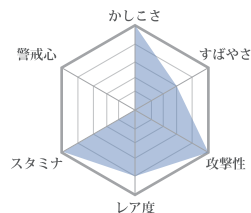
体重：10g～20g

体長：150mm～170mm

寿命：不明

危険度：★★★★★

生息地：不明



知能があり、人間に対して反抗的な態度がみられるため第四種特殊生物の中でも危険度は高い。左の写真は第四種特殊生物研究所本部の庭にある防犯カメラに映り込んだ物である。カメラの映像ではカメラ目線や踊るなどといった挑発的な態度がみられた。アイ・ロータンは先進国を中心に現れ、人々に不安やプレッシャーを与える生物である。オリンピックやコンクールなどの世界的に大きな舞台で出現し、選手に取り付く。アイ・ロータンに取り付かれた人物で良い結果を残したものはないとされている。ただ、どのようにして不安を与えてい

るのかは判明していない。アイ・ロータンの第一人者であるピンルック・モキチ博士は「アイ・ロータンは大きな目を持っている。」という発言を残した後、その真意は詳しく語らないまま突然の引退を発表した。しかし、それにも関わらずアイ・ロータンは愛くるしい見た目のお陰で非常に研究者からの人気が高く、「あいたん」と呼ばれて親しまれている。限定発売のぬいぐるみは販売初日に売り切れるという盛況ぶりであった。

ヒートスネーク

真夜中の刺客

学名：calidum-coluber (英：heatsneak)

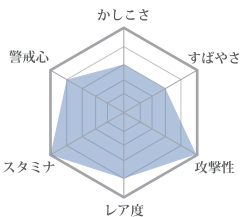
体重：150g～300g

体長：200mm～300mm

寿命：5年～10年

危険度：★☆☆☆☆

生息地：先進国



生息域の家庭にあるドライヤーに擬態したヘビの一種である。実際のサイズはドライヤーよりも小さいが、住み着いている家庭のドライヤーが買い替わるたびに、それに合わせて姿を変える習性がある。ヒートスネークは爬虫類の一種でありながら非常に体温が高く、夜間に熱を口から発散することで体温を一定に保っている。この行動を繊維質なものに向けて行う傾向が認められており、とりわけ人間の頭髪を好むことが判明している。朝起きると寝ぐせがついている日があるが、これはヒートスネークの仕業である。多くの場合、パーマ用のカー

ラーのような姿をしたカールインセクトが片利共生している。カールインセクトが髪を絡め、ヒートスネークが高熱を照射する連携プレーをとることで、普通に寝ている場合では考えられないような寝ぐせを付ける。共生関係が確認された第四種特殊生物は、現段階では非常に珍しい。

ヒートスネークの擬態は信じられないほど高精度であり、中にはマイナスイオン機能を併せ持つことに成功した個体も発見されている。しかしながら、擬態したところでサイズまでは合わせられないため、人間の目を欺くことはできない。

ネコ VS. ヒートスネーク

愛玩動物代表 × 第四種のダークホース

マイケルさん (48) は語る。「あれは暑い夜のことだった。俺はトムの鳴き声に目を覚ましたんだ。そこで様子を見に行ってみたら、近くに見たこともない生き物が倒れていて、トムはぐったりとしていたんだ。」

当時のカメラ映像を見てみよう。まず、ヒートスネークがベッドの上に現れると同時に、トムが唸り声を上げる。熱を口から放出するヒートスネーク、それを避けるトム。トムは毛を逆立てて威嚇するが、ヒートスネークの長い体に足が引っかかり、棚に倒れこむ。そこに吹きかける熱風に苦しむトム。ここでヒートスネークは油断したのだろう。トムに噛み付かれて絶命する。これは熾烈な縄張り争いである。





クラジャーバ

金槌の如き一撃

学名：aura-malleus (英：frogishhammer)

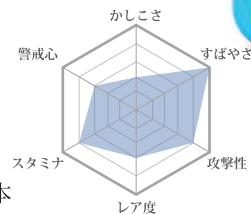
体重：120g～200g

体長：70mm～100mm

寿命：2年～3年

危険度：★★★★☆☆

生息地：東欧諸国、日本



頬杖をついて寝ているときに、ガクッとひじがずれてしまう。そんな経験はないだろうか。これはクラジャーバのせいである。ハッと目を覚まして辺りを見回しても何もいないのは、とても素早いからだ。クラジャーバが最初に発見されたのはチェコ東部モラヴィア地方。この地域には昔から尾を持つカエルの伝説があったが、1968年に牧場を営むレオシュ・スーク氏によって捕獲されるまで誰もが架空の生き物と信じて疑わなかった。スーク氏はこれをブラハ支部（2010年、ブルダヴァークの戦いによって廃部）に持ち込み、機構によって詳

細な研究が行われた。クラジャーバはほとんどが肉食性で昆虫を主に食べるが、大型のものは小型哺乳類まで食べることがある。陸上で採食するものは、舌を伸ばし、昆虫をそこに巻き込んで口に引っ張り込む。とても素早いために捕獲は困難を極めるが、捕獲を目的としないならば腐った玉ねぎが対策として有効であると考えられている。これはチェコの民話「ベドルジハくん」とびっくりウサギ」の中に登場する方法だ。貧しいが切れ者であるベドルジハくんは、国に蔓延るクラジャーバを玉ねぎで退治し、お姫様と結婚する。



ジョロータ

地より這い出るアヒル顔
学名：aura-malleus (英：frogishhammer)

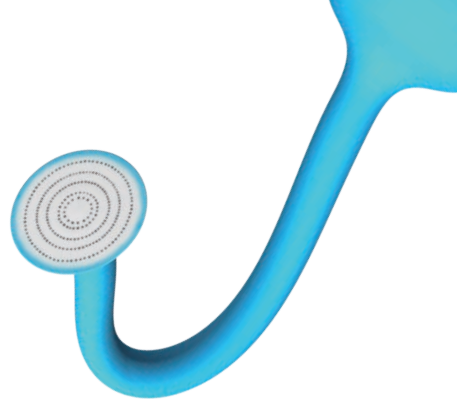
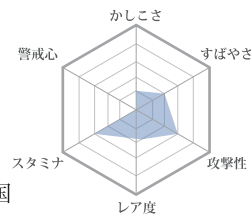
体重：40g～60g

体長：80mm～150mm

寿命：1年

危険度：★★☆☆☆

生息地：熱帯、温帯諸国



信号待ちをしているとき、あるいは自動販売機の前で立ち止まったとき……やつらはそこを狙う。ジョロータは雨を体内の水類と呼ばれる器官に蓄え、晴天時にじょうろ状の器官を通して人の足元へ排出する生き物だ。じょうろの語源は、ポルトガル語の「水の噴出」を意味する「jorro」に由来すると言われているが、そもそも「jorro」という言葉はこの生物を指し示すものらしい。17～18世紀にかけて、ポルトガルのバンデイランテスがブラジルを探検した際にジョロータを発見し、これを模してじょうろを作ったというのが定説

である。

ジョロータの幼生は水中で生育するため、成体が生息するのも川、河口、湖の近くである。細長い体を隠すことができる砂や土の中を好んで日中はそこに潜んでおり、夜になると餌を求めて活発に動き出す。犬に匹敵する嗅覚を持ち、人間の臭いに反応すると土を抜け出て、路上に出現しては人々を驚かせる。

ジカンドロボウ

奴はとんでもないものを…

学名：obstupefacio (英：paralyzer)

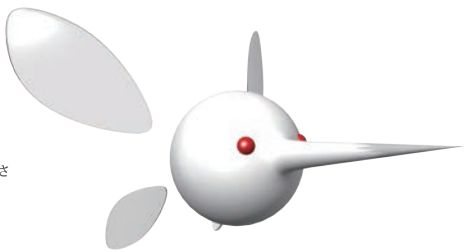
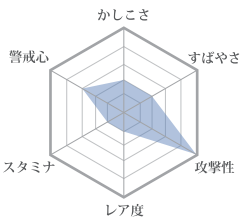
体重：5g

体長：30mm～40mm

寿命：4年～9年

危険度：★★★★☆

生息地：日本全域



人を刺して麻痺させ、血液を吸い取る生物。蚊と似ているが、彼らよりも少ない量しか血を奪わない。刺された人は数分～1時間ほど気を失うが、痛みもなくゆるやかに麻痺するため単純に時間だけが過ぎたように感じてしまう。これにより、時間を奪う生物という異名からジカンドロボウと名付けられた。第四種特殊生物の中でも比較的捕まえやすく繁殖もさせやすいため、医療、科学、生物、また料理の分野での研究が進んでいる。人間の気を失わせるジカンドロボウであるが、今までに身体的に大きな影響が出た例は無く、そのため、医療の

分野で新たな麻酔として使用できるのではないかという期待の声も高い。2006年に発表された「A and Dの実験」で初めてジカンドロボウへの有効な対抗策が報告された。それは虫除けスプレアの主成分であるディート濃度12%を部屋の片隅に置いておくと、ジカンドロボウの部屋への進入を86%減少させるというものであった。またジカンドロボウの嘴の部分は非常に折れやすいが、3日程でまた生え変わる。

第四種特殊生物レシピ

～ジカンドロボウの天ぷら～

材料

- ・ジカンドロボウ 1匹
- ・捕まえて3日以内の新鮮なもの
- ・好みの野菜
- ・天ぷら粉 適量
- ・水、塩 適量

作り方

1. ジカンドロボウの羽を丁寧に切り取る。この時、本体を傷つけない。
 2. 羽が生えていた場所に切り込みを入れ、洗いながら嘴から絞るように血を抜く。
 3. 塩水に30分ほどつける。生臭さをなくすためにしっかり行う。
 4. キッチンペーパーで水分をとる
 5. 水で溶いた天ぷら粉をつける。
 6. 高温で揚げる
 7. 塩をまぶして完成
- 好みに醤油をかけても美味しい。



現在、機構の日本支部で大人気となっているのが、このジカンドロボウの天ぷらである。食堂で働く品川平子さんが考案したもので、非常にヘルシーで健康に良いと話題である。味はおでんの大根のような深みがあり、もちもちとした食感である。値段はサラダとみそ汁付きで520円と大変お得である。日本支部に訪れた際はぜひご賞味あれ。



コユビコロシ

天上天下唯我独尊

学名：quintus-caedo (英：fourthhitter)

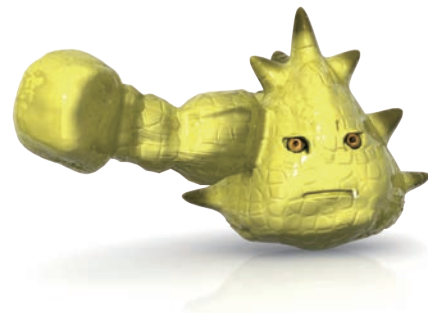
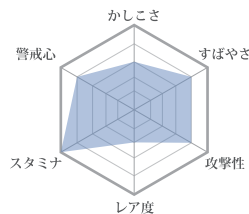
体重：50g~70g

体長：30mm~40mm

寿命：約5年

危険度：★★★★☆

生息地：狭い建物の中



足の小指を角にぶつけることがあっても、それはあなたが寝ぼけていたからとは限らない。コユビコロシに指を殴られると、最悪の場合骨折をするまでに至る。この生き物は入念に計画を練り、確実な一撃を人類に与えるために息を潜めている。ターゲットを観察し、寝起きで意識がはっきりしない時に行動を起こす。このため、活動時間は明け方が多い。プライドがとても高く、人間の小指との勝負では無敗の成績を誇っている(と本人は思っている)。しかし、実際の性格は臆病であるため、自分より明らかに力が劣ると判断した者のみを狙った

結果、必ず勝つというだけである。コユビコロシはかつて世界中に生息していたが、1870年代に爆発的な増加が確認されたため、1873年にトマッシュ作戦が実行された。ハワイ、ガム、バリで天敵であるシマリスを放ち、コユビコロシを追い出す駆除作戦である。この作戦によって、上記の3か所の地域は人々にストレスフリーな印象を与えることに成功し、後に人気観光地となるまでになった。現在は、有名観光地以外の全域に生息しており、部屋の曲がり角のみにとどまらず、タンスの隅、椅子の足など様々な家具の陰で暮らしている。



クロスイーター

むしやむしやむしや

学名：lauandi-axicia (英：clothes eater)

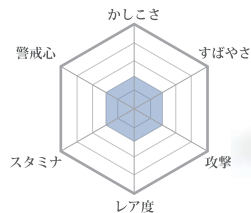
体重：30g～60g

体長：50mm～70mm

寿命：2年～5年

危険度：★★★☆☆

生息地：日本全域



クロスイーターは洗濯バサミによく似た容姿を持つ生物であり、ハンガーにぶらさがりながら洗濯物を食べる厄介者だ。靴下が片方無くなることが多ければ、彼らの仕業であると断定しても良いだろう。クロスイーターは特に綿素材を好むため、綿100%の衣類を干す場合は狙われなければならないように注意が必要である。

予防はハンガーにかけるタイプの虫コナーズを用いることで簡単にできるが、捕獲は洗濯バサミと判別しなければならぬために難しい。唯一の手がかりは、洗濯物を食べているときに光る目と突起だ。

ところで、あなたは疑問に思わなかっただろうか。クロスイーターは洗濯バサミに擬態していると言われているが、一体どちらが先なのか。これに関しては、機構の歴史文献調査グループが2005年より調査を行っているが、未だに解決の糸口さえ見えない状況である。そもそも「洗濯バサミはいつできたのか」という疑問自体が未だに解決されていない生活用品七不思議の一つでもあるのだ。現在、機構ではこれに加えて「道路に片方だけ落ちている軍手」との関連についても調査している。

フエモドキ

魅惑の音色

学名：avistibia (英：whistlehead)

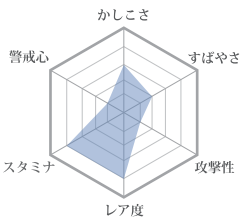
体重：300g～500g

体長：150mm～200mm

寿命：5年

危険度：★☆☆☆☆

生息地：都市部



大都市での夕刻、おびただしい数の鳥が電線に並んでいることがある。一体どこにこれだけの鳥が潜んでいたのだろうか。そしてなぜ、毎日のように鳥は電線に並ぶのだろうか。その答えとなる生き物が、フエモドキである。

フエモドキは、夕方になるとムクドリを筆頭とする鳥類を鳴き声で集め、電線上に整列させる。普段は単独行動をする習性の鳥も、フエモドキの存在を怖がって整列している。左右にある目のような模様は、ムクドリの天敵であるフクロウの目を模しており、整列させる鳥に対して威厳を示し

ていると考えられる。鳥は整列を余儀なくされるものの、同時にフエモドキの能力によって感電から守られるという恩恵も受けている。フエモドキは隠れることなく、鳥の大群の中で整列の指示を出しているが、人々は鳥がいるだけと決めつけるため、彼の姿は認知されない。

フエモドキがなぜ鳥を集め、整列させているのかは、長年議論的となっているが、「フエモドキ同士が整列の規模で力を競っているのではないか」という説が有力だ。しかし、このアピール行動が公害問題とまでになっていることは言うまでもない。

タヒーラオ

ちょ、こいつまじやべえよ

学名：alienisru-hilarus (英：hiratius)

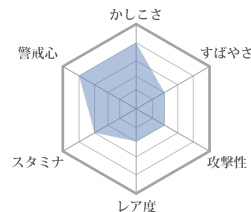
体重：120g～180g

体長：50mm～60mm

寿命：5年～8年

危険度：★★★☆☆

生息地：先進国



「ウェーイ！」
「ゆーてワンチャンあるっしょ」
「おつかれえええ」

若者の言葉遣いの悪化は留まるところを知らず、社会問題とまでになっている。実はこれがこのタヒーラオの仕業だと言ったら驚くだろうか。この生物の発する音波が、言語知能をつかさどる脳の前頭極に著しいダメージを与え、能力の低下を促すことが近年の研究で明らかになった。そのターゲットとなるのは主に大学生である。アルコールを摂取することで生きているタヒーラオは飲み屋街に多く生息しているため

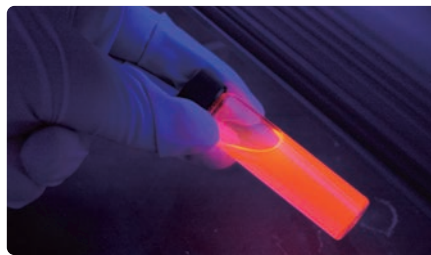
だ。人口密度の多い地域に棲んでいるにも関わらず、目撃例がまれであるのは、比較的遠距離から攻撃してくる点が主な要因と考えられている。タヒーラオは数メートルあるいは数十メートル離れたところからでも音波を武器に人間を攻撃する。被害は会話障害だけでなく筆記にも表れており、被害者の特徴として「w」の頻出、「おやすみいいいい」等の母音の伸ばし、顔文字の多用が挙げられる。

現在、アイザック教授率いる音響生物チームによって研究が行われているが、有効な対策は見つかっていない。

人類の反攻・研究施設と特殊装備

第四種特殊生物の持つ能力に対抗するためには、生態分析と専用装備が必要となる。研究施設はイギリス・ロンドン本部の統括のもと、世界中の地域に 27 の支部を持つ。ロンドン本部は創設者ドン・チャールズが所有する城の地下200m 地点に設置されたが、これは特殊生物に本部の場所を悟られてしまうことを危惧したためである。戦後、特殊生物の危険性が民間を中心に普及したことをきっかけに、世界各地の主要都市に支部が建てられ、現在の体制にいたる。

各支部はそれぞれが生物研究室を保有している。1985年、カナダ支部が開発した第四種特殊生物検出薬（写真・ノルテトロステロン）が配備されてからは、調査能力が飛躍的に向上した。これは特殊生物の DNA に含まれる微量な化学物質に反応して、発光する薬品だ。



また、機構が有する最も大規模な装備がアメリカ・テキサスに1990年に建造された大型衝突型加速器（写真・内部の様子）である。環状トンネルは円周約20kmに相当し、2008年にCERNの大型加速器が始動するまで世界最大級の規模を誇っていた。陽子が高速で衝突する際に発生する高エネルギーを観測・利用することで、新たな特殊生物の研究を行っている。特殊生物の中には、時空次元を超えたとしか考えられない能力を持つものもいる。この施設は、そのような能力を解き明かすためにも使用される。ハンディな装備で普及したものとしては、超音波探索装置があげられる。特殊生物の多くは人類の目から逃れる為に超音波を使って周囲の状況を察知しているが、その際に発生する微弱な音波をつかみ逆探知を行う事で特殊生物の居場所を特定する。この技術は研究機構設立当時から繰り返し発展を続けている。特殊生物の能力は強力だが、人類の対抗策も日々進化を続けている。今後も我々は特殊生物に反攻すべく、あらゆる知識を駆使して新技術を追い求めていく。





エンゼルヘア

ふわふわ

学名：diripio（英：angel hair）

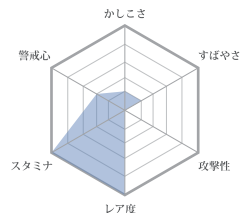
体重：1g以下

体長：5mm～60mm

寿命：1年

危険度：★☆☆☆☆

生息地：世界各地



白くフワフワとした体で非常に体重が軽く、僅かな気流に乗って空中を漂う。毛が長く、ハウスダウトなど空中のゴミをかためとってしまうため、地面に着地した際、体をブルブルと震わせてゴミを取り除く。これにより、本棚や机などにほこりが積もっていく。飼育するのは非常に難しく、繁殖に成功したものは世界で3例ほどしかない。繁殖はオスとメスを同じ瓶に入れておき、日光・温度・湿度などの条件がすべて合致するとそれぞれが分裂して増える。自然界での繁殖の様子はまだ確認されていない。

エンゼルヘアは見ると幸せになると言われており、実際に、成功者の近辺には多く存在していたという目撃談も多数報告された。そのため、エンゼルヘア獲得の争いは現在も世界中で行われている。これに危機を感じた人々の間で、「エンゼル平和運動」と題したエンゼルヘアを象徴とする運動が行われ始めている。グループのリーダーであるクロエ・リシャールは「多くの人にエンゼルヘアを通して平和を感じてほしい」と述べている。次の運動は2月7日にパリのアトランティック庭園で行われる。



タンゲルオクトパス

天真爛漫

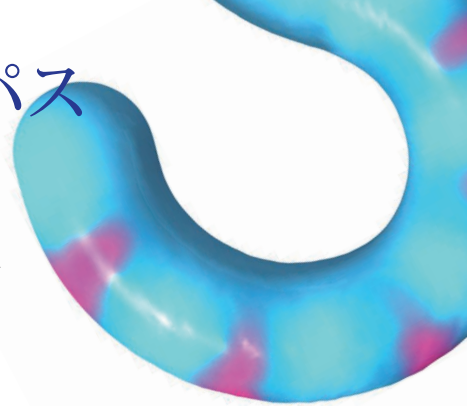
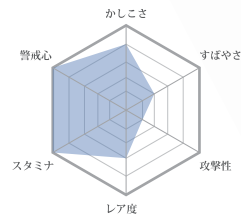
学名：complexu-polypus (英：tangler)

体重：10g～20g

体長：80mm～150mm

寿命：2年～8年

危険度：★☆☆☆☆



人間の靴や引き出しの中に忍び込み、イヤホンなどのコード・ケーブルを絡ませる。これはコードを絡ませることによって巣を作っているためである。巣ではずっと眠りについているが非常に臆病であり、人間の気配を感じると素早く巣から出て行く。そのため、巣を作っても留まる時間は非常に短い。ただし、かばんの中が汚いようなくぼらな人間に対しては長い間留まることもあると、昨年11月の第四種特殊生物研究報告会でザワ・ヨッシー博士が報告している。また、タンゲルオクトパスは臆病な性格に加え、体表の色を変化させて様々な物

に擬態することができるため、見つかることは滅多にない。同族同士で出会うことは滅多になく、雄雌同体である。2002年から行われたタンゲルオクトパスの飼育実験により、おおよその寿命、繁殖方法、寿命などが解明されている。

タンゲルオクトパスの被害への対策としては、2003年のヒラ・タンドール博士による「タンゲルロール（またヒラタンロールとも呼ばれる）」が現在最も有効である。「タンゲルロール」に関しては2003年度に発行された第四種特殊生物報告書を参考して頂きたい。



キホウ

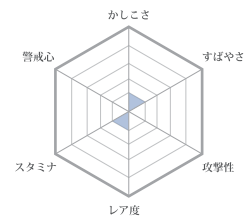
お米じゃないよキホウだよ
学名：caeli-bulla（英：bubble）

体重：0.0001g~0.001g

体長：1mm~10mm

寿命：2年~3年

危険度：★☆☆☆☆



スマートフォンなどの画面と保護シートの間に見られる気泡は、ただの空気の泡だとは限らない。実はこのキホウであることのほうが多いのだ。キホウは普段は空気中に生息し、浮遊しながら空気中の塵を捕食している生き物だ。無数にただよっているため、人間が保護シートを上手く貼らないとすぐに侵入してくるが、いざ入ると呼吸ができなくなり即死。死骸だけが画面に残る。この死骸が気泡に似ていることからキホウと名づけられたのである。

キホウに関して面白いエピソードがある。1957年、二人の技術者アルフレッド・

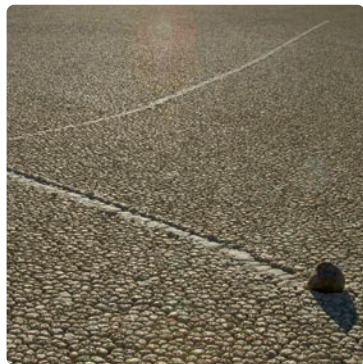
フィールディングとマーク・カヴァネスは簡単に清掃できる壁紙を作ろうと、紙の上に布地の模様をつけてビニールをかぶせた壁紙を開発していた。この際、誤ってビニールに気泡ができてしまったことにヒントを得て、彼らが気泡緩衝材いわゆるプチプチを発明したのはよく知られているが、もしかしらこの時できた気泡はキホウだったのかもしれないと、後にマークは追懐しているのだ。人間を落ち込ませるキホウが、人間の役に立ったというのは何とも皮肉な話である。ちなみにキホウ自体も弾力があり、つぶすとプチッとした快感が味わえる。

第四種特殊生物の片鱗

動く石の正体に新説

アメリカ・カリフォルニア州のデスヴァレー国立公園の干上がった湖底では、夜間に石が長距離に渡って移動する「セーリング・ストーン」と呼ばれる現象が起こる。石は数年の周期で移動し、最大では1年に500mほども移動することもある。その軌道も千差万別であり、直線を描くものもあれば不規則な動きをするものもある。

未だ謎が多いこの現象に関して、主任研究員のオリヴィエ・ニールセンはこう語る。「この地域では幾多もの第四種特殊生物が発見されてきた。この湖はかつて強い塩基性を示し、塩分濃度とヒ素濃度が異常なほどまでに高かった。そう、つい最近話題になったモノ湖と同様だ。この生物は極限環境微生物 GFAJ-1 のようにヒ素濃度が高い場所で生息可能であって、それが何らかの特殊な進化を可能としたのだろう。」



ネッシー疑惑写真事件

医者が撮影した、世界で最も有名なネッシーの写真。ネッシーが実在しないことは科学的にも明らかであるが、なぜ常識を持ち合わせているはずの医者がこのような悪ふざけしてしまったのか？それは、医者を洗脳し、結果的に世界を混乱に陥れた特殊生物が実在したからである。この事件から、人類の精神に以上をきたす特殊生物が存在する事が明らかになった。



遺跡に残された第四種特殊生物

1968年5月23日、メキシコのチアパス州パレンケにある古代マヤの遺跡「碑文の神殿」の地下から、考古学者のエドウィン・ボッグスが奇妙な絵や文章が描かれた壁を発見した。未知の言語により彫刻された文は極めて特異な規則性を持っており、現在に至るまで多くの暗号学者が解読を断念してきた。生物を思わせる絵はどれも既存の生物から離れた形状をしており、第四種特殊生物に相当するものではないかと考えられてきたが、文章が解読できないため確証を得るには不十分だった。しかし、本研究機構ならびにカーネギーメロン大学は11月21日、壁画の解読に成功したことを発表した。解読の結果、この石版の文章は3種類の第四種特殊生物に関するものであることが判明した。その一つはアイ・ロータンと類似する生物「クィーヨル」であり、ここに書かれた生態はアイ・ロータンと類似することから何らかの近親性があると考えられる。



ポータルカ

電光石火

学名：fossae-serpens

(英：habiportant)

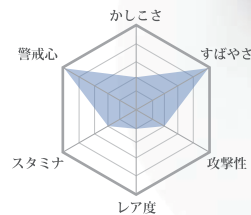
体重：3g～5g

体長：70mm～100mm

寿命：約2年

危険度：★☆☆☆☆

生息地：主に先進国



情報化の極めて進んだ現代社会において、一気に個体数を増やし、猛威を振っている生物がポータルカである。生息域は先進国の全域であり、まさに今この瞬間にも新たな区域に進出している。ポータルカが住処とするのは、あらゆる電子機器 USB ポートの内部である。2003 年、カルロス・ガー博士によって、ポータルカが USB ポートから電力を吸収していることが明らかとなった。一種の機械生命体ではないかという見解もある。普段はほとんど動かないが、住処としているポートに端子が差し込まれる際には俊敏な動きで脱出する。しかし、

逃げ遅れる頻度も高く、しっぽを挟まれてしまうことも多い。慌てて USB ケーブルをポートに差し込もうとすると、端子の方向が正しいにも関わらずうまく差し込めないことがあるが、この原因がお分かりいただけただろうか。

使われずに放置されているデスクトップパソコンを好み、USB ポートの使用頻度が高いノートパソコンにはあまり生息していない。個体数は増加の一途をたどるが、USB よりもサイズの小さい端子が普及しつつあることを考慮し、保護対象リストへの追加が検討されている。

頻尿蛇口マン

ひねるぜ、ひねるぜ～

学名：solveris-renibus (英：pollakiuria)

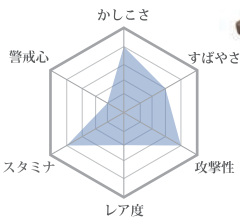
体重：3g～7g

体長：5mm～10mm

寿命：不明

危険度：★★★★☆☆

生息地：世界各地



頻尿蛇口マンは人の膀胱に生息する生き物であり、人間の体内にある小便の蛇口をひねることで膀胱頸部筋を緩ませ、頻繁に尿意をもよおさせる。その歴史は古く、エジプト第16王朝(紀元前17～16世紀頃)のミイラの膀胱から石灰化した頻尿蛇口マンの卵が発見されている。彼らは一体どうやって体内に侵入してくるのか。これは近年まで謎だったが、2013年に泌尿器研究の異端児ユッカ・デ・ワールト博士によって唱えられた、「頻尿蛇口マンは食物とともに摂取され、下大静脈から骨盤静脈叢に寄生し、それから膀胱壁内に入り込む」と

いう説が有力である。見た目がどれも子どもでもあるのは、成体になると尿に混じって淡水中に逃げるからである。しかし、近年の下水道の発達により彼らの未来は閉ざされた。そのせいか、最近彼らはもやっとなることが多らしく、ストレス発散に蛇口をひねる回数が増えているという報告もある。現在、対症療法としては受容体を刺激して筋を収縮させる α 受容体刺激薬が知られている。予防としては、汚染された淡水系に皮膚をさらさないことが挙げられよう。したがって、素足で河川等に入ること

ウルキソン

命短し小さき戦士戦士

学名：futurusfilius (英：willkison)

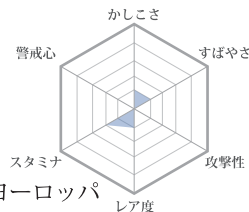
体重：5mg～10mg

体長：0.2mm～0.5mm

寿命：1週間～2週間

危険度：★☆☆☆☆

生息地：北アメリカ、ヨーロッパ



非常に小さく軽量で、50～100匹ほどで一つの群れを作り風に流されて移動する。炭酸のジュースのキャップがゆるいの中に入り込み、炭酸の泡をつぶし、我々が求める炭酸のしゅわしゅわ感を消滅させる。これはウルキソンが繁殖する際、角でより多くの泡を消し去ったオスがモテるためである。しかし、ウルキソンは背骨の役割も果たしている角が折れると死んでしまう。オスは炭酸をつぶす行為によって疲弊した角は1週間ほどで折れてしまうため、オスの寿命は短い。また、メスも炭酸の泡から卵を守る際に角を疲弊し、2週間ほど

の命である。ウルキソンの皮膚の粘膜は非常に特殊であり、バイ菌を浄化させる。そのため、飲み物にウルキソンが入ると炭酸の美味しさは減少するが、衛生管理状は全く問題がない。この皮膚の粘膜は、バイ菌を遠ざける様から「アンパン X」と呼ばれ、医療の分野での研究が積極的に進められており、近い将来この粘膜が人間の命を救うことは間違いないだろう。



イヴロン

光速の狩人

学名：evelon（英：evelyon）

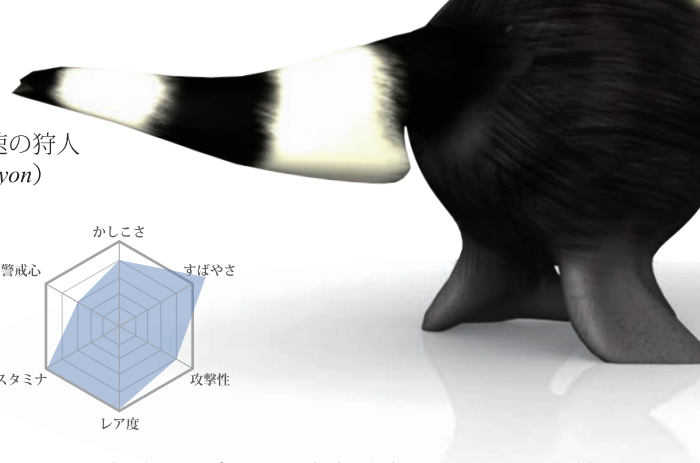
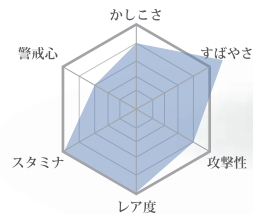
体重：10g～20g

体長：80mm～100mm

寿命：不明

危険度：★★★★☆

生息地：不明



外出中に靴ひもがほどけるという経験は誰にでもあるだろう。それはこのイヴロンの仕業である。イヴロンは足が早く、最高速度は40km/hにもものぼる。人間の靴ひもがほどけそうになっているのを見つけると、素早く近寄り20kgの力で靴ひもを噛む。この際、素早くしっぽを地面に突き刺し足を踏ん張ることによって、人間の足の力に対抗しているのだ。イヴロンは靴ひもがほどけたのを確認すると、また次のターゲットを求めて素早く去っていく。

イヴロンが最初に発見されたのは1865年のことであり、第四種特殊生物の中でも

古くから存在が確認されている一種である。しかし、イヴロンは足が速いため捕獲にはいたっておらず、体重や繁殖行為など謎も数多く存在する。中でも最大の謎とされているのは、イヴロンの目である。現在、目の機能を果たしているであろう部分は発見されておらず、研究者間ではしばしば論争が起きている。イヴロンの行動は靴ひもをほどくという行為しか確認されていないが、最高速度・噛む力を考えると非常に危険な生物である。



サラマンドラ

忍び寄る危険

学名：draconemardere（英：Salamander）

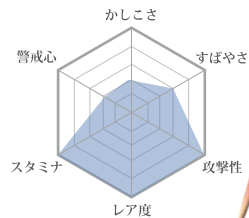
体重：100g～150g

体長：50mm～100mm

寿命：不明

危険度：★★★★★

生息地：全世界



卓上に置いておいたはずのものがなくなってしまった経験は誰もがもちであると思うが、あまりにその頻度が多いようであれば、あなたの家にはサラマンドラが生息している可能性が高い。この小さな爬虫類は、ガムの包み紙やシャーペンに付属する消しゴムなどといった、人間がなくすと絶妙に困るアイテムを燃やすことに一生を費やしている。タバコの吸い殻を燃やすことも多い。我々の研究から、タバコの不始末による火災の真の原因はサラマンドラであると判明した。彼らは自らのテリトリーの整備をしたいと考えているだけであり、

故意に火災を起こすことを目的にはしていないとみられているが、事実上の危険度が非常に高いのは明らかであろう。翼を持ち、住処を定期的に変えているため、正確な寿命は未だにわかっていない。現在、7年前に世界中で相次いで発見された5体のサラマンドラに、GPSを付けて情報を収集・解析している最中である。

神話にたびたび登場するドラゴンの典型的なイメージを確立したのも、この生物であると言われている。フォルムだけが独り歩きし、実際のサイズよりも拡大されたイメージが伝承されてしまっている。

未確認第四種特殊生物に関する報告

～ U4 調査隊 72 日間の戦い～

第四種特殊生物は謎に包まれていて、彼らが何のために我々人間を襲うのかも、未だに解明されていない。そして、その中でも姿すら確認されていない生物を我々は未確認第四種特殊生物 unidentified4——通称「U4」と名付けた。

メキシコ・ユカタン半島で謎の物体の目撃情報が相次いでいるとの知らせが、第四種特殊生物対策研究機構メキシコ支部に届いた。この謎の物体は突然上空に姿を現したかと思えば、空中にしばらくの間滞在し、突然姿を消すという。また、中には光を点滅させたり、「襲われた」との証言もあった。我々はこれを未確認第四種特殊生物 U4 と判断し、9 月 7 日調査開始を決定する。U4 についての調査を行うため、86 カ国 92 支部のなかでも U4 調査の専門家達をメキシコ支部に派遣。11 名によるチームを結



成した。このチームのリーダーは日本支部の岑村であったことから、彼らは「岑村調査隊」と呼ばれるようになった。10月20日、彼らは最初に U4 が発見されたメキシコのユカタン半島へと足を踏み入れた。

岑村隊長をはじめとして、隊員達は流暢にスペイン語で地元住人に取材を開始する。しかし、成果は得られなかった。11月18日、彼らはずいに U4 を確認する。しかし、この U4 はあまりにもすばやく、現在使用している「第四種特殊生物対策撮影機」4CA では輪郭をはっきり写すことはできなかった。12月10日、調査隊はジャングルに突入。U4 の影を感じるものの成果は得られなかった。12月16日、再度準備を整えてジャングルに突入し、洞窟を発見。しかし、U4 の仕業なのか落盤事故が発生。幸い死者はなかったが、5名が負傷する結果となった。U4 を確認するために新たな対策を講じる必要があると実感する結果となった。

岑村隊長は言う。

彼らは我々が想像したよりも賢く、人間のことをよく知っている。正直、レベル5以上の可能性もある。だが、我々調査隊は諦めない。なぜなら、立ちはだかる壁は乗り越えるためにあるのだから。

岑村調査隊の戦いは現在も続いている。成果を次号で公表できることを期待したい。

あとがき

本稿は2013年11月3日に行われた第四種特殊生物研究報告会までの研究成果を元に記したものである。我々はこの報告書により、第四種特殊生物の特徴や恐ろしさを十分に理解してもらえたと自負している。読者の皆さんにはこの文書で得た知識の周知・徹底をしっかりとしていただきたい。

創設者ドン・チャールズは設立の際に「皆が気づいていないのなら我々がやるしかない。戦えるものが戦うべき

なのさ。」といった言葉を残している。その言葉を心に置いて、第四種特殊生物対策研究機構はこれからも研究に力を注ぎ、第四種特殊生物から人々の安全を守ることに全力を尽くしていく。

最後に、本稿を執筆するに当たって尽力して頂いた研究者、スタッフ、そして友人であり局長のショウ・ヤングに感謝する。

2014年1月14日 著者一同

第四種特殊生物報告書 2013

発効日 2014年1月31日 初版第1号
著者 山口翔梧・須賀光・平田章・
福田ゆき香・岑村春香・吉沢文洋
総指揮 金尚泰
発行所 第四種特殊生物対策研究機構
ISBN978-7-882-68020-5
NDC 分類番号 462 総ページ 42

2013年度 情報メディア実験

I. mnmr

Kinshiro Yoshizana

Hirota
Akira

Yuhika

Yuhika

Douga

